

江戸川区 里川小松川自然地協議会

小松川自然地へのアダプト制度導入事業

実施団体概要

団体名 里川小松川自然地協議会
 協働した公共団体 江戸川区土木部水とみどりの課推進係
 その他の協議体・会議構成団体等 特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム（主たる NPO 等）/ 江戸川・生活者ネットワーク / 下平井水辺の楽校 / 中土手に自然を戻す市民の会
 事業 URL <http://www.cleanaid.jp/>
 連絡先：所在地 〒132-0033 東京都江戸川区東小松川 3-35-13-204（荒川クリーンエイド・フォーラム内）
 TEL 03-3654-7240 FAX 03-3654-7256 E-mail renraku@cleanaid.jp

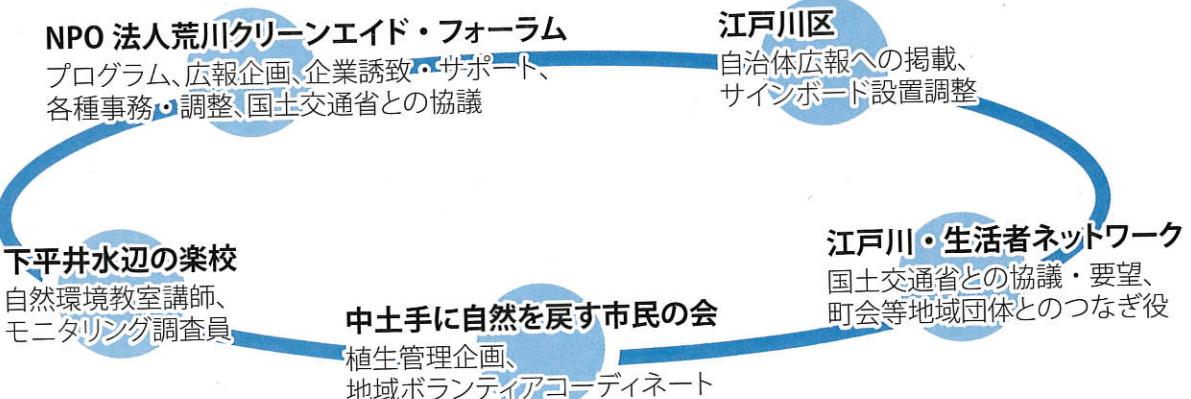
モデル事業の目的・背景・課題

小松川自然地の河川敷は都心にありながら干潟などの豊かな自然環境に恵まれている。一方で、漂着ごみの堆積や、環境省が指定する外来植物の繁茂など、多くの問題を抱えているが、国土交通省の管理は堤防付近にとどまっているのが現状である。

本事業では、人々が自然と触れ合い楽しみながら、持続的に自然環境が守られていく東京らしい「里川」の創造を目指し、近隣住民や企業にとって魅力的な自然地保全活動を普及啓発することを目的とした。

マルチステークホルダー・プロセス

NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラムを中心に、5 団体が協力して事業を実施した。各団体は、主に以下の役割においてリーダーシップを發揮した。



モデル事業の実績

里川プログラムの開催

参加者数延べ2,318名 一般市民参加率54.8%

地域向けの里川プログラム

一般市民向けに、外来種植物の観察や除草体験、ヨシズ編み体験など、都市河川の自然を再発見しながら徐々に保全意識が芽生えるようなプログラムを 10 回開催した。(延べ 605 人参加)



外来種を除草して日本古来の植生を取り戻す

学校向けの里川プログラム

近隣小学校 2 校で、バッタ・キリギリス調べ、外来植物の観察や除草体験、ごみ拾いなど、自然地に興味を持つきっかけとなるようなプログラムを 5 回開催した。(延べ 665 人参加 (児童・教員・保護者))



地域・企業の皆さんと草原の生き物調査

企業向けの里川プログラム

美化活動だけにとどまらない、自然環境保全を啓発するプログラムを 11 回開催した。(参加企業 8 社 延べ 1,048 人参加)

以前の自然地の美化活動は企業参加が主で市民参加は 2 割弱であったが、本事業でのプログラムにより、市民の参加が大幅に増え、自然地の保全管理への関心が高まった。

外来種セイタカアワダチソウの除草がより効果的に行われたことで、外来種の完全除去 2 地点を含む、7,700 m² の在来種を主とする草地を創出した。

テレビ番組とコラボレーションした企画では、ボランティアが 252 人集まり、184 袋分のごみと 77 点の粗大ごみを回収した。



干潟で自然環境教室

植生管理・モニタリングの実施

里川プログラムでの外来種除草成果について、専門家による植生モニタリングを実施。その結果、外来種の除草方法や時期など、在来種を取り戻すために効果的な方法が明確になった。

アダプト制度の導入・アダプト看板の設置

国土交通省と協議を重ねた結果、アダプト制度が導入され、広報機能付きのアダプト看板が設置された。

その他、広報活動として里川プロジェクトやモニタリングの成果をホームページ等に掲載した。

また、啓発パンフレットや、「バッタ・キリギリス調べ」マニュアルを作成した。

今後の事業展開

アダプト制度導入に伴い江戸川区は協議会からは抜け、今後は 4 団体で協議会を継続する。行政に対して、市民の立場で持続可能な新しい公共実現のために必要な提案を引き続き行う。外来種除草エリアを集中し、在来種を主とする低層草地を創出し、学習・啓発に活用する。里川プログラムへの個人参加を促すために、近隣の町会・市民団体や自然環境に関心の薄い層の参加が増えるような広報・企画を検討する。企業寄附などの安定的な資金援助を模索する。

江戸川区 | 里川小松川自然地協議会

小松川自然地へのアダプト制度導入事業

実施団体概要

団体名 里川小松川自然地協議会

協働した公共団体 江戸川区土木部水とみどりの課推進係

その他の協議体・会議構成団体等 特定非営利活動法人荒川クリーンエイド・フォーラム（主たる NPO 等）/ 江戸川・生活者ネットワーク / 下平井水辺の楽校 / 中土手に自然を戻す市民の会

事業 URL <http://www.cleanaid.jp/>

連絡先：所在地 〒132-0033 東京都江戸川区東小松川 3-35-13-204（荒川クリーンエイド・フォーラム内）

TEL 03-3654-7240 FAX 03-3654-7256 E-mail renraku@cleanaid.jp

モデル事業の目的・背景・課題

小松川自然地の河川敷は都心にありながら干潟などの豊かな自然環境に恵まれている。一方で、漂着ごみの堆積や、環境省が指定する外来植物の繁茂など、多くの問題を抱えているが、国土交通省の管理は堤防付近にとどまっているのが現状である。

本事業では、人々が自然と触れ合い楽しみながら、持続的に自然環境が守られていく東京らしい「里川」の創造を目指し、近隣住民や企業にとって魅力的な自然地保全活動を普及啓発することを目的とした。

モデル事業の具体的な内容

市民や企業へ効果的に普及啓発するため、バッタ・キリギリス調べなど、楽しみながら身近な自然への保全意識が芽生える里川プログラムを企画・運営した。

アダプト制度を試験的に導入するため、市民や企業と定期的に美化活動を行った他、セイタカアワダチソウなど要注意外来種の除草活動やモニタリングを行った。

市民主体での保全活動を持続的に行うため、アダプト看板に企業メッセージを掲載することで民間資金が得られないか検討した。

マルチステークホルダー・プロセス

NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラムを中心に、5 団体が協力して事業を実施した。各団体は、主に以下の役割においてリーダーシップを発揮した。

NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラム
プログラム、広報企画、企業誘致・サポート、各種事務・調整、国土交通省との協議

江戸川区
自治体広報への掲載、サインボード設置調整

下平井水辺の楽校
自然環境教室講師、モニタリング調査員

中土手に自然を戻す市民の会
植生管理企画、地域ボランティアコーディネート

江戸川・生活者ネットワーク
国土交通省との協議・要望、町会等地域団体とのつなぎ役

为增加竞争力与市场份额，企业会根据客户的需求定制产品。

行政机构、市民的立場、持續可能的新公共表現的範例已經要發揮到行動轉化為行動。

少教の事業問題

其他的、法報活動也已經深入人心，王二冬之父的成果在本一人民中等已經擴散開去。

說書人

• 7.5.1 小看板の設置

方法明確的方法。方法明確的方法。

里川口方言の外来語彙草底集(1972)、専門家による植生二分法による実施。その結果、外來種の除草方法が時期など、外来種を取引する

植物管理・王二久著の実績



士淵之自然環境數量



⁶外米穀交換草レ2日本古米の種玉交換の題。



“The world is a book, and those who do not travel read only a page.”

于184集分为77点的粗大动作回放。252人集里，184集分为77点的粗大动作回放。

自然地の保全管理への關心が高まっています。外來種による干水力の障害が大きい結果の航行難化が、外來種の完全除去2地点を含む、7,700 m³の在来種を主とする

以前の自然地の美化活動から公衆参加が主で市民参加が次第に増加する傾向にある。しかし、本事業では人口減少による市町村参加が大幅に増加する。

11回開催した。(参加企業8社　延べ1,048人参加)

企業向才の里山アート

近隣小学校2校で、1学年・半学年で開かれる、外来植物の観察会や草体験、.DataSource、自然地元興味を持った力が多くの子たちに力を発揮する。また、665人参加（児童・教員・保護者）

吉力口力于山在 10 回黽儻乞。(\approx 605 人参加)

地域向かいに口をひらく

參加者數額八二,三一八名 一般市民參加率五四·八%

里川の河口付近の開拓